

## ちいさな証

## 神様にすべてを委ねて生きること

トムセン千香子

スイス日本語福音キリスト教会



今ここに私を神様の子供としてくださった神様に、大いなる不思議と感謝をもって小さな証を書かせていただきます。

京都の東山区という沢山のお寺に囲まれたところで育った私は、クリスチャンとは全く無縁の環境にいました。私は、8歳の頃より尋常性乾癬という難病指定されて

いる皮膚疾患を患っています。いろいろな治療をしてきましたが、やはり治す事は、無理なようです。

両親も藁にもすがる思いで、人から聞いては、私を方々の病院に治療を受けさせに連れて行ってくれました。何人かの祈禱師のところも訪ねましたが、あるところでは、神様の水でこれを飲んだら治ると言われ飲まされた事もあります。でもそんなものは、もちろん、効くはずもありません。でももしかしたらという思いもありました。私は、神様のおられないところで神様を捜していたのです。

そんな頃夏祭りか、どこかのお祭りの出店のアクセサリー屋さんで、イエスさまのお姿のある十字架のペンダントが無性に欲しくて母にせがんで買ってもらいました。とても嬉しかった事を覚えています。そして今もそれは、箱に入れて引き出しに大事にしまっています。キリスト教の事を何も知らない私が、なぜほしがったのか、今でも自分自身もはっきりとは、わかりませんが、治らない病の中で、神様を捜していたのかもかもしれません。

学校では心ない言葉に傷ついた事も何度もありますが、神様は良い友人を与えてくださり、学生生活は、ありがたいことに基本的に楽しく過ごせました。年頃の頃は、自分の醜い体に涙した事もあります。でも不思議な事に死にたいと思った事はありませんでした。何だかわかりませんが、先に希望がある。温かな光のようなものがあると感じていました。それは今思えば、将来用意されていたイエスとの出会いだったのだと思います。

20代半ばに夫ハンスと出会いました。彼との出会いが私にとって初めてのクリスチャンとの出会いでした。彼は、私の病気を気にも留めない人でした。私を病ごと受け

入れてくれる彼に、何という人だろうと驚きました。当時彼が住んでいた南ドイツのフライブルグには、有名な皮膚科のお医者様がおられました。ある夏フライブルグに彼を訪ねたおり、彼はお医者様にアポイントを取り通訳をしてくれ、その上自腹を切ってまだ婚約もしていない私に治療を受けさせてくれました。なんと言う人だろうと、またもや驚きました。神様は、彼の行いを通して、私にイエス様をもっと知りたいと思う気持ちを起こさせてくださいました。

彼は、そんなに熱心に伝道するような人ではありませんが、いろいろな私のキリスト教に対する質問に丁寧に答えてくれました。ある時私は、彼に『世界中で一番愛している人は、誰?』と聞いた事があります。私は、もちろん私だと言ってくれるだろうと期待して聞いたのですが、彼の口からは、『イエス様』という答えが返ってきました。思ってもみなかった答えに不意をつかれ、またもや三度目の驚きです。そして私はクリスチャンに対して更に興味を持ち始めました。

それから数年後結婚と同時に洗礼を受けて、晴れてクリスチャンになりました。とてもとても未熟なクリスチャンでしたが、神様は慈しみ深くこんな私をも神様の子供としてくださいました。それまでは、自分の力や、偶像に頼る生活をしていた私をイエスキリストによって和解させてくださいました。

『神は、キリストによって世をご自分と和解させ、人々の罪の責任を問う事なく、和解の言葉を私たちにゆだねられたのです』(コリント2 5:19)

『事実あなた方は、恵みにより、信仰によってすぐわれました。この事は、自らの力によるのではなく、神の賜物です。』(エフェソ2:8)

また神様は忍耐強く、今でも失敗ばかりを繰り返す私を導いてくださっています。特に夫の大学院生生活の中で5人の子供達を育てていたときは、いろいろな困難にぶつかりましたが、そんな困難の中で、神様は、神様に近づく事、そして、神にすべてを委ねて生きることの大切さを教えてくださいました。

『私の恵みは、あなたに十分である。力は、弱さの中でこそ十分に発揮されるのだ。』(コリント2 12:9)

まだまだ未熟な私ですが、それでも今私は、心から言えます。『世界で一番愛している方は、イエス様、あなたです。』と。

